

健康社会医学

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
助教（うち病院籍）	2 人	(0 人)
助手（うち病院籍）	0 人	(0 人)
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	1 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	4 人	
大学院学生（うち他講座から）	12 人	(0 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	2 人	
合計	23 人	

2 教員の異動状況

尾島 俊之（教授）	(H18.4.1～現職)
村田千代栄（助教）	(H17.4.1～19.3.31 助手；19.4.1～現職)
野田 龍也（助教）	(H19.4.1～現職)
徳本 史郎（特任助教）	(H23.4.1～H24.3.31)

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	15 編	(6 編)
そのインパクトファクターの合計	18.67	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	2 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5 編	(5 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yamada T, Hayasaka S, Shibata Y, Ojima T, Saegusa T, Gotoh T, Ishikawa S, Nakamura Y, Kayaba K : Frequency of citrus fruit intake is associated with the incidence of cardiovascular disease: The Jichi Medical School Cohort Study. Journal of Epidemiology 21: 169-175, 2011. [2.110]
2. Hayasaka S, Shibata Y, Noda T, Goto Y, Ojima T : Incidence of symptoms and accidents during baths and showers among the Japanese general public. Journal of Epidemiology 21(4): 305-308, 2011. [2.110]
3. Shibata Y, Hayasaka S, Yamada T, Ojima T, Ishikawa S, Kayaba K, Gotoh T, Nakamura Y, for the JMS Cohort Study Group : Physical activity and risk of fatal or non-fatal cardiovascular disease among its survivors: The JMS Cohort Study. Circulation Journal 75: 1368-1372, 2011. [3.225]
4. Hasegawa T, Murata C, Noda T, Takabayashi T, Ninomiya T, Hayasaka S, Ojima T : Variables associated with suicide ideation and plans in a Japanese population. Health 3(5): 276-287, 2011. [0.0]
5. Noda T, Ojima T, Hayasaka S, Murata C, Hagihara A : Gargling for oral hygiene and the development of fever in childhood: a population study in Japan. Journal of Epidemiology 22(1): 45-49, 2012. [2.110]
6. Nasu K, Kinjo Y, Isarida T, Nakamura M, Ojima T : Consistency of face scale choice between nursery school children and their teachers and parents while using facial expression stickers developed to improve young children's daily routines, The Asian Journal of Child Care 3: 19-27, 2012. [0.0]
7. 村田千代栄, 斎藤嘉孝, 近藤克則, 平井寛 : 地域在住高齢者における社会的サポートと抑うつとの関連 : AGES プロジェクト, 老年社会科学 33(1): 15-22, 2011. [0.0]
8. 野田龍也, 徳本史郎, 村田千代栄, 早坂信哉, 尾島俊之 : 小学生・中学生・高校生の朝食欠食と学習時間の関係, 厚生指標 58(15): 1-6, 2011. [0.0]
9. 水田明子, 巽あさみ : 大学における来談者相談に対する保健室担当者が抱える困難と課題, 日本地域看護学会誌, 14(2) : 92-100, 2012. [0.0]
10. 仲村秀子, 鈴木知代, 佐藤圭子, 福田容史子 : 指導者と共に参加する新任保健師保健指導技術研修の評価—新任保健師の学び、学びを助けた要因—, 日本地域看護学会誌 14(2): 130-135, 2012. [0.0]

インパクトファクターの小計

[9.555]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Hanibuchi T, Kondo K, Nakaya T, Nakade M, Ojima T, Hirai H, Kawachi I : Neighborhood food environment and body mass index among Japanese older adults: results from the Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES). International Journal of Health Geographics 10(1): 43, 2011. [2.340]
2. Aida J, Kondo K, Hirai H, SV Subramanian, Murata C, Kondo N, Ichida Y, Shirai K, Osaka K : Assessing the association between all-cause mortality and multiple aspects of individual social capital among the older Japanese. BMC Public Health 11: 499, 2011. [2.364]
3. Ezoe S, Morooka T, Noda T, Miriam Lewis Sabin, Koike S : Population Size Estimation of Men Who Have Sex with Men through the Network Scale-Up Method in Japan. PLoS ONE 7: e31184, 2012. [4.411]

4. 瀬戸秀文, 島田達洋, 入野康, 山本智一, 小泉典章, 吉住昭, 竹島正, 尾島俊之, 野田龍也, 山下俊幸, 小高晃: 医療観察法入院処遇前における精神保健福祉法入院の現状. 臨床精神医学 40(11): 1495-1505, 2011. [0.0]
5. 早川徳香, 岡田俊, 中村美詠子: 産業現場における自閉症スペクトラム傾向と抑うつ状態に関する予備的調査—the Autism-Spectrum QuotientとCES-Dの関連性—. 南山大学紀要「アカデミア」人文・自然科学編 3:145-154, 2012. [0.0]

インパクトファクターの小計

[9.115]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, 村田千代栄, 平井 寛, 近藤克則, 西 晃弘, 白井こころ, 相田 潤, 近藤尚己: 高齢者の循環器疾患死亡における所得と喫煙の交互作用. 循環器病予防学会誌 46(2):155 2011.
2. Ojima T, Nakamura M, Yasuda T, et al.: Effectiveness of smoking prevention programs for maternal and child health, Journal of Epidemiology & Community Health, 65(suppl 1):A139, 2011.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之: 公衆衛生の新たな展開 問題発見から、いいところ発見へ, 地域医学, 25(9): 828-831, 2011. [0.0]
2. 村田千代栄, 近藤克則: 医療アクセスと健康格差, 日本公衆衛生雑誌, 58(6):463-467, 2011. [0.0]
3. 尾島俊之, 近藤克則: ライフコース疫学, 日本公衆衛生雑誌, 58(3): 199-201, 2011.

インパクトファクターの小計

[0.00]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 尾島俊之, 一般ボランティアの理解と連携. 和田耕治, 岩室紳也編集: 医療従事者が知っておきたい 被災者や自分を守るためのポイント集 ～東日本大震災の支援に入るために～, 中外医学社, 2011.
2. 尾島俊之: 健康危機時のネットワーク、心のケア. 大井田隆編集. 図説 国民衛生の動向 2011/2012. (財) 厚生労働統計協会, 2011.
3. 尾島俊之: 公衆衛生のチカラ 公衆衛生とは?を問う大震災、いいところ発見モデル(アセット・モデル)のすすめ、災害時の公衆衛生支援. 岩室紳也, 安藤実里, 石川貴美子, 尾島俊之, 国吉秀樹, 鈴木廣明, 田中久子, 藤内修二, 中板育美, 中川昭生, 中瀬克己, 原田久, 櫃本真事, 福島富士子, 福永一郎, 福原円, 松岡宏明著. 公益社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター編. 健康なくに. 医療文化社, 2011.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 岡本悦司, 兼板佳孝, 小橋元, 坂田清美, 佐藤敏彦, 吉池信男, 岡田充史, 尾島俊之, 嘉納明

子，亀崎豊実，高橋美保子，西浦博，森下幸治，山田宣夫，渡邊亮一：サブノート 保健医療・公衆衛生 2012 第 35 版，メディックメディア，2011.

2. 柳川洋，尾島俊之，北村邦夫，中村好一，菊地慶子，倉田貞美，近藤今子，柴田陽介，巽あさみ，千原泉，坪井聡，中村美詠子，西山慶子，長谷川拓也，原岡智子，安田孝子，渡辺晃紀：保健指導ノート 2012 公衆衛生の現状，日本家族計画協会，2011.

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	7 件	(585 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	7 件	(2,208 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(34.2 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

- 尾島俊之（代表者） 基盤研究（C）、アセットモデルによる公衆衛生施策に関する基礎的及び実践的研究、平成23～25年度、286万円（新規）
- 村田千代栄（代表者） 基盤研究（C）、一般高齢者における受療抑制とその予後に関する追跡研究、平成21～23年度、130万円（継続）
- 野田龍也（代表者） 若手研究（B）、小児におけるうがいと感染症の予防に関する実証研究、平成23年～平成25年、117万円（新規）
- 尾島俊之（分担者） 基盤研究（C）、二次医療圏単位の平均余命の基礎的特性及び保健医療状況等との関連に関する疫学的研究、平成21～23年度、13万円（継続）、研究代表者 埼玉県立大学保健医療福祉学部 新村洋未
- 尾島俊之（分担者） 基盤研究（B）、心理社会面に着目した認知症の予防的社会的福祉に向けた縦断研究、平成22～25年度、13万円（継続）、研究代表者 星城大学 竹田徳則
- 尾島俊之（分担者） 基盤研究（A）、社会的排除としてのwell-being格差とソーシャル・キャピタルの研究、13万円（新規）、研究代表者 日本福祉大学 近藤克則
- 村田千代栄（分担者） 基盤研究（B）、心理社会面に着目した認知症の予防的社会的福祉に向けた縦断研究、平成22～26年度、13万円（継続）、研究代表者 星城大学 竹田徳則

(2) 厚生労働科学研究費

- 尾島俊之（代表者） 成育疾患克服等次世代育成基盤研究、小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究、平成 23 年度、1,600 万円
- 尾島俊之（分担者） 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究、健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究、平成 23～24 年度、研究

	分担者、128 万円、研究代表者 藤田保健衛生大学 橋本修二
尾島俊之（分担者）	健康安全・危機管理対策総合研究、地域健康安全を推進するための人材養成・確保のあり方に関する研究、平成 22～23 年度、300 万円、研究代表者 国立保健医療科学院 曾根智史
尾島俊之（分担者）	循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究、2010 年国民健康栄養調査対象者の追跡開始（NIPPON DATA 2010）と NIPPON DATA 80/90 の追跡継続に関する研究、平成 22～24 年度、70 万円、研究代表者 滋賀医科大学 三浦克之
尾島俊之（分担者）	成育疾患克服等次世代育成基盤研究、健やか親子 21 を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、平成 21～23 年度、70 万円、研究代表者 山梨大学 山縣然太郎
尾島俊之（分担者）	長寿科学総合研究、介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発、平成 22～24 年度、20 万円、研究代表者 日本福祉大学 近藤克則
野田龍也（分担者）	成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業、小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究、平成 23 年度、20 万円、研究代表者 浜松医科大学 尾島俊之

（5）受託研究または共同研究

株式会社バスクリン「入浴が健康増進に及ぼす影響に関する研究」平成 22～23 年度、342,335 円
（継続）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	2 件	0 件
（2）シンポジウム発表数	2 件	1 件
（3）学会座長回数	0 件	3 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件
（5）学会役員等回数	0 件	15 件
（6）一般演題発表数	3 件	

（1）国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Ojima T, Yamada T, Hayasaka S, Hasegawa T, Tokumoto S, Noda T, Murata C : Current status and countermeasures of suicide in Japan, International Conference on Transcultural Psychiatry, Ranchi (India), Sept 2011.
2. Hanibuchi, T, Nakaya T, Murata, C : Socio-economic status and self-rated health in East Asia: a comparison of China, Japan, South Korea and Taiwan. EASS Conference 2011, JGSS Research Center, Osaka University of Commerce, Higashi-Osaka (Japan). May 2011.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Ito C, Yuzuriha T, Higuchi S : Brief Intervention with Heavy Drinkers in Work Place: Randomized Clinical Trial in Japan , 34th Annual Research Society on Alcoholism (RSA) Scientific Meeting, Atlanta (USA), Jun 2011.
2. Ito C, Yuzuriha T, Higuchi S : Brief Intervention with Heavy Drinkers in Work Place: Randomized Clinical Trial in Japan , 2th Asia-Pacific Society for Alcohol and Addiction Research, Bangkok (THA), Feb 2012.

5) 一般発表

ポスター発表

1. Ojima T, Nakamura M, Yasuda T, Noda T, Murata C, Hayasaka S, Tonai S, Nagai A, Tanaka T, Kondo N, Suzuki K, Yamagata Z : Effectiveness of smoking prevention programs for maternal and child health, International Epidemiologic Association World Congress of Epidemiology, Aug 2011, Edinburgh (UK)
2. Murata C, Takeda T, Hirai H, Kondo K : Does Baseline Depression Predict Dementia Onset among the Old?: A 4 year Follow-up Study from the AGES Project, American Public Health Association's 138th Annual Meeting and Exposition, Oct 2011, Washington DC, (USA)
3. Tatsumi A, Murata C : Association between depression among male workers and sleeping problems in Japan, American Public Health Association's 138th Annual Meeting and Exposition, Oct 2011, Washington DC, (USA)

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

尾島俊之 : 疫学研究から臨床研究へのアプローチ, 第 28 回日本医学会総会, 2011.4.8-10, 東京 (東日本大震災によりオンライン開催)

4) 座長をした学会名

尾島俊之 第 47 回日本循環器病予防学会, 2011.6.3-4, 福岡
尾島俊之 第 57 回東海公衆衛生学会学術大会, 2011.7.23, 愛知
村田千代栄 第 70 回日本公衆衛生学会総会, 2011.10.20, 秋田

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

尾島俊之 日本公衆衛生学会 評議員
尾島俊之 日本公衆衛生学会 査読委員
尾島俊之 日本公衆衛生学会 地方試験委員会委員
尾島俊之 日本疫学会 評議員
尾島俊之 日本循環器管理研究協議会 (日本循環器病予防学会) 理事
尾島俊之 東海公衆衛生学会 理事

尾島俊之 日本産業衛生学会東海地方会 理事

尾島俊之 日本他施設共同コホート(J-MICC)研究 モニタリング委員 (日本疫学会からの推薦)

尾島俊之 日本栄養改善学会 評議員

尾島俊之 第58回日本学校保健学会組織委員

尾島俊之 日本循環器管理研究協議会総会学会あり方委員会委員

早坂信哉 日本プライマリケア学会 評議員

早坂信哉 日本公衆衛生学会 評議員

早坂信哉 日本温泉気候物理医学会 評議員

村田千代栄 アメリカ公衆衛生学会 査読委員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国 内	外 国
学術雑誌編集数 (レフリー数は除く)	0 件	2 件

(2) 外国の学術雑誌の編集

村田千代栄 Journal of Health Behavior and Public Health [HBPH], USA の編集委員

村田千代栄 ISRN(International Scholarly Research Network) Public Health, USA の編集委員

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

尾島俊之 3 回 Journal of Epidemiology (Japan)

尾島俊之 2 回 PLoSONE (USA)

尾島俊之 1 回 Asia-Pacific Journal of Public Health (USA)

村田千代栄 1 回 Archives of Gerontology and Geriatrics (USA)

村田千代栄 3 回 Journal of Occupational Health (Japan)

村田千代栄 2 回 Journal of Epidemiology (Japan)

村田千代栄 1 回 Public Health Nursing (USA)

9 共同研究の実施状況

	平成 23 年度
(1) 国際共同研究	2 件
(2) 国内共同研究	12 件
(3) 学内共同研究	0 件

(1) 国際共同研究

1. JA EHLEIS (Joint Action European Health and Life Expectancies Information System)、INED (Institut National d'Etudes Démographiques, France)、INSERM (Institut national de la santé et de la recherche médicale, France)、2011-2014、資料の交換、UC (European Commission),
2. EASS2010 (Eastern Asian Social Survey 2010) : Hong Kong University of Science and Technology, Renmin University : China, Sungkyungkwan University, Yonsei University : Korea, Institute of

Sociology, Academia Sinica, National ChengChi University : Taiwan, H20-23, 資料交換（文部科学省など）

（２）国内共同研究

1. JAGES（日本老年学的評価研究）、地域在住高齢者の要介護発生に関わる要因に関する追跡研究、心理社会面に着目した認知症の予防的社会福祉に向けた縦断研究、近藤克則（日本福祉大学社会福祉学部）、竹田徳則（星城大学）
2. 小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究、谷原真一（福岡大学）、西連地利己（獨協医科大学）、上原里程（自治医科大学）、山縣然太郎（山梨大学）
3. 健やか親子 21 の推進のための情報システム構築および各種情報の利活用に関する研究、山縣然太郎（山梨大学大学院医学工学総合研究部社会医学講座）
4. 健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究、橋本修二（藤田保健衛生大学医学部衛生学講座）
5. 聴覚器戦略研究 聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、福島邦博（岡山大学医学部耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
6. NIPPON DATA 研究、三浦克之（滋賀医科大学社会医学講座）、他
7. 地域健康安全に貢献するボランティアの養成・確保の方策に関する研究、曾根智史（国立保健医療科学院）、岡野谷純（日本ファーストエイドソサエティ）
8. 地域における低出生体重児予防要因に関する検討事業、小松仁（長野県諏訪保健所）、佐々木隆一郎（長野県飯田保健所）
9. 緑茶のもつ生活習慣病改善効果の検証と効果的な摂取を可能にする新商品の開発、栗山進一（東北大学大学院医学系研究科環境遺伝医学総合研究センター）
10. JMS コホート研究、石川鎮清（自治医科大学地域医療学センター）
11. JGSS2010（Japanese General Social Survey）、岩井紀子（大阪商業大学 JGSS 研究センター）
12. JALS study（Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study）、豊嶋英明（JA 愛知厚生連 安城更生病院）

10 産学共同研究

	平成 23 年度
産学共同研究	1 件

1. 株式会社バスクリン「入浴が健康増進に及ぼす影響に関する研究」平成 22～23 年度

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. JAGES（日本老年学的評価研究）プロジェクト

日本福祉大学の近藤克則教授が中心となって進めている JAGES（Japan Gerontological Evaluation Study, 日本老年学的評価研究）プロジェクトに、当教室も関わっている。本研究は 1999 年に愛知県の 2 自治体で始まり、2003 年には、3 県 15 自治体における一般高齢者 3 万人、2010～2011 年には対象地域を北海道から沖縄までに広げ 10 万人超の大規模コホートとなった。また、H19 年度より科学研究費を得て、高齢者の受療行動（健診受診など）についての日米比較研究を行って

る。また、高齢者の受療抑制の予後（要介護状態、認知症・うつ発症など）、その他の課題について解析を行っている。（村田千代栄、尾島俊之、徳本史郎、JAGES プロジェクト、日本福祉大学健康社会研究センター）

2. 小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究

厚生労働科学研究（成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業）による指定研究として、「小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究」（研究代表者 尾島俊之）を実施した。これは、国の特定疾患等に関する公費助成、生活支援等の対策の見直しのための基礎資料として、小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の状況等を明らかにするための研究である。その結果、高額療養費制度等の充実・制度の啓発、また就職及びその後の職場での支援の強化が重要であることなどを明らかにした。（尾島俊之、野田龍也、徳本史郎、福岡大学、獨協医科大学、自治医科大学、山梨大学）

3. 健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究

厚生労働科学研究（循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業）「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」（研究代表者 藤田保健衛生大学医学部衛生学講座橋本修二教授）の分担研究として実施した。当講座では、健康寿命における生活習慣病の対策シナリオの設定、地方自治体における実用性の検討、国際的な視点からの健康寿命の活用等を検討した。本研究班の成果は、国の健康日本21の最終評価にも活用されている。（尾島俊之、野田龍也、藤田保健衛生大学、東北大学大学院）

4. NIPPON DATA 研究

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「2010 年国民健康栄養調査対象者の追跡開始(NIPPON DATA 2010)と NIPPON DATA 80/90 の追跡継続に関する研究」（National Integrated Project for Prospective Observation of Non-communicable Disease And its Trends in the Aged）（研究代表者 滋賀医科大学社会医学講座 三浦克之教授）の分担研究として実施した。当講座では、静岡県、愛知県における調査について担当し、さらにデータの整理・分析に参画した。食品群摂取量と血清総コレステロールとの関連、牛乳・乳製品摂取量と死亡リスクとの関連について検討した。（尾島俊之、近藤今子、中村美詠子、滋賀医科大学）

5. JA EHLEIS (Joint Action European Health and Life Expectancies Information System、健康・平均寿命情報システムに関する欧州共同事業)

JA EHLEIS は、欧州委員会（EC, European Commission）とほとんどの欧州連合（EU）加盟各国の共同、さらに米国、日本の参画による、2011～2014 年までの予定のプロジェクトである。Dr. Jean-Marie Robine（Institut national de la santé et de la recherche médicale, France、フランス国立衛生医学研究所）を中心として、(1) 平均寿命及び健康寿命の共同分析及び統合のための中心基地となり、欧州の人々の寿命の検討に質的な向上の側面を加えることに資すること、(2) 加盟国間の格差の状況を明らかにすること、(3) 各国及び欧州全体での公衆衛生戦略における今後の重点を明

らかにすることの3つを主な目的として検討を行っている。(尾島俊之)

6. JGSS、EASS 研究

JGSS (Japanese General Social Surveys、日本版総合的社会調査) 研究センターは、文部科学省より共同研究拠点として認定され、EASS (East Asian Social Survey) 2010 では、「東アジアの健康と社会」をテーマとして、肉体的・精神的・社会的健康に関する調査項目を日本・韓国・中国・台湾で共通に設け、2010年に実施された。本調査には医療アクセスや医療に関する不安についての質問項目をいれ、現在は結果についての解析を進めると共に、総括班が整備した既存データの分析を、国内データ、国際比較データについて順次進めている。(村田千代栄、EASS プロジェクト、JGSS プロジェクト)

7. JALS (Japan Arteriosclerosis Longitudinal Study)

JALS は、公益信託・日本動脈硬化予防研究基金の助成の下、全国各地で行われている循環器コホート研究の個人データを統計的に統合し、日本人の循環器疾患発症リスクとリスク因子の影響を評価するために開始された研究である。JALS は、(1)標準化を達成し前向きにデータを統合する研究(統合研究)、(2)先行するコホート研究における個人単位の成績を緩やかな標準化によって統合する研究(0次統合研究)の二つの研究からなっている。JALS には、豊嶋英明名古屋大学名誉教授による愛知県職域コホートとしてデータの提供を行っている。本研究には共同研究者として参加し、心理社会要因と循環器疾患発症リスクの関連についてデータの解析などを行っている(村田千代栄)

8. その他の研究

幼児に対するうがいや手洗いの普及と感染症発生の関係について研究、アセット・モデルによる公衆衛生施策に関する研究、健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究、聴覚障害児の療育等により言語能力等の発達を確保する手法の研究、地域における低体重児予防要因に関する検討、JMS コホート研究等を行った。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

1. JAGES プロジェクトは、公衆衛生学のみならず、社会学、経済学、地理学などの研究者が名を連ねるなど学際的である。また、所得や教育と健康の関連についても検討を加えるなど独創的な視点から研究が進められている。一般高齢者10万人以上を対象にした社会疫学に関するコホート研究は、国内外でも貴重である。この一環として、米国ハーバード大学や、イギリス、スウェーデンとの共同研究も行っている。この研究は、根拠に基づく保健医療政策立案に向け、基礎的データの提示を目標としているが、政策に直結するような実証研究への期待は今後ますます高まると思われ、研究の継続性、政策への応用性が見込まれる。

2. 小児慢性特定疾患のキャリアオーバー患者の実態とニーズに関する研究

実際の施策に直結する課題として、厚生労働省による指定研究として実施した。小児慢性特定疾

患の受給が終了した全国の該当患者を対象とし、生活や就業面にも焦点を当てた大規模調査は非常に独創性が高い。また、今後の、国による公費助成、生活支援等の対策の検討に直結する応用性の高い研究である。

15 新聞、雑誌等による報道

1. 早坂信哉：サウナ入浴法(前編) 東京スポーツ 2011.5.24
2. 早坂信哉：サウナ入浴法(後編) 東京スポーツ 2011.5.25
3. 尾島俊之：地域医療志す医師養成推進 静岡新聞 2011.6.10
4. 栗山進一、尾島俊之：緑茶の効能 研究報告 中日新聞 2011.8.1
5. 早坂信哉：旅館の従業員ら、温泉入浴指導員をめざす 嬉野市 佐賀新聞 2011.10.19
6. 早坂信哉：日台交流 発展温泉医療保健 台湾経済日報 2011.11.13.
7. 教育G P：災害時医療再点検を 静岡新聞 2011.11.17
8. 尾島俊之：ごみを考える 皆さんのお得感の変化に期待 広報はままつ 2011.12.5
9. 野田龍也：緑茶うがいの風邪予防証明 浜松医大の研究グループ 静岡新聞 2012.1.13
10. 早坂信哉(監修)：健康美女をつくる温泉の選び方、使い方 シティリビング 2012.1.13
11. 早坂信哉：いま人気急上昇炭酸泉温熱効果のヒミツ 東京スポーツ 2012.1.17
12. 野田龍也：うがいで検証！緑茶の効果は 静岡放送 2012.1.17
13. 早坂信哉：炭酸泉 東京スポーツ新聞 2012.1.17
14. 野田龍也：うがい効果あった…浜松医大助教ら調査 読売新聞 2012.1.23
15. 野田龍也：緑茶うがいめっちゃ効果 園児2万人調査 発熱減る 中日新聞 2012.1.25
16. 野田龍也：うがいに風邪予防効果 西日本新聞 2012.3.5
17. 野田龍也：うがいの効果は・・・ 風邪の発熱頻度を抑制 下野新聞 2012.3.9
18. 野田龍也：うがいやはり風邪予防 福島民友新聞 2012.3.9
19. 野田龍也：うがい風邪予防に効果 園児の追跡調査で確認 山梨日日新聞 2012.3.12
20. 野田龍也：うがいの風邪予防効果確認 保育園児を追跡調査 共同通信 2012.3.13
21. 野田龍也：ガラガラうがいで風邪予防 効果を確認 京都新聞 2012.3.13
22. 野田龍也：うがい、風邪予防に効果 秋田さきがけ新聞 2012.3.13
23. 野田龍也：うがいで風邪予防 効果を確認 信濃毎日新聞 2012.3.19